



第31回 日本語スピーチ発表会

アジアの若者たちが日本語でつながる

日本在外企業協会(日外協)は第31回日本語スピーチ発表会を昨年10月27日(木)に東京のアセアンホールで開催した。今回は、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイの8カ国で行われた日本語スピーチ・コンテストの優秀者12人が、各国関係者、学生、会員企業関係者などの前でスピーチを披露した。

発表会は昨年の本プログラムの参加者からの応援メッセージ動画から始まり、各スピーチの発表後には桜美林大学経済経営学系の馬越恵美子教授から軽妙洒落な講評をいただいた。日本アセアンセンターの藤田正孝事務総長からは「アセアンセンター事務総長賞」の賞状が1人

に贈られ、また発表者全員に記念品が授与された。

交流会では、発表者12人と会員企業、日本の大学生、参加各国の大使館関係者などが出席し、歓談する中で交流の輪を広げることができた。

なお、本発表会を共催した国際機関日本アセアンセンターや、本事業の協力団体である特定非営利活動法人アイセック・ジャパンには今回も多大なるご支援・ご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。以下スピーチの要旨を紹介する。(発表順に掲載。所属、年齢は発表会当時)

※本事業の詳細は日外協サイト参照。トップ>「日外協の活動」>「国際交流活動」
<http://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest>

*写真は発表会当日、発表者の皆さんと講評の馬越教授ほか参加国大使館、日外協、日本アセアンセンター、アイセック・ジャパン各関係者。

1. フィクリ・レサタさん (Mr. Fikri Resata)

(インドネシア / 21歳 / 学生)

「私と仮面ライダー」

子どもたちに「大きくなったら何になりたい」と聞くと、「仮面ライダー」と多くの子どもが答えます。私も小学生の時、毎日『仮面ライダーBLACK』を見て仮面ライダーになりたいと思い、テレビの前で変身や戦い方をまねしていました。

高校生になっても私は番組を見続けていました。ある日、両親が「仮面ライダーはフィクションだよ。人間は体を変えることはできない」と言いました。私は何も言いませんでしたが、頭の中で本当なのかなとずっと考えていました。

高校の授業で私は物語について勉強し、物語の要素にはキャラクターと話の流れ、道徳的メッセージがあることを知りました。私はやっと変身の本当の意味に気づきました。変身はただ体の形を変

えるということではなく、変身によって人々の役に立つ人間になるという意味だと分かったのです。

高校の卒業が近づいても、私は自分の目標が全然分かりませんでした。ある日ふと日本製のキャラクターである仮面ライダーのことを思い出して、「日本に関係する学部がいい」と考えました。私は日本文学部に入学することにし、今は日本学科で、日本語だけでなく、日本の文化や生活、歴史も勉強しています。

勉強は思ったより大変です。日本語の授業もだんだん難しくなり、一生懸命勉強してもテストで満足な点数が取れなくなりました。2年生の時、成績が下がって日本文学を選んだのは間違いだと思うようになり、私は日本文学をやめようと思いました。でも仮面ライダーのことをまた思い出しました。仮面ライダーの主人公は苦しい時も人々を守るために頑張って立ち上がります。私は頑張れ

ばきっと解決できるとやる気になりました。私は勉強を続けて変身し、スーパーヒーローとなって人々の役に立つ人になりたいという自分の夢を見つけました。



私は脚本家になり、自分のスーパーヒーローの物語を作りたい。そして、人生の価値と道徳的メッセージを人々に伝えたい。仮面ライダーが私のやる気を引き出したように、私のスーパーヒーローの物語が人々のやる気を引き出すようになればいいと思っています。いい脚本を書くためには多くのアイデアが必要です。それは簡単ではありませんが、やる気と努力で夢は叶うと信じています。

諦めないでください。皆さんもきっと変身することができます。仮面ライダーは私の人生の手本です。皆さんの人生の手本は誰ですか。

2. モンナット・ラッサミーさん (Ms. Monnut Rasamee) (タイ / 21 歳 / 学生)

「大人になるのが怖い」

大人の世界に一步足を踏み入れると戻る方法はありません。そう思いませんか。

皆さんは子どもの時、早く大人になりたい、大人はいいなと思ったことがありますか。大人は自分の好きなものが買えるし、頭がよくて何でもできると子どもの私は思っていました。

でも実際はどうでしょう。成長とともに、その気持ちは変わっていくのではないのでしょうか。幼稚園生の時は、みんな幼稚園へ行くのが大好きです。でも小学生、中学生と学年が上がるにつれて勉強が難しくなります。高校では勉強ももっと難しくなり、考えることも増えてきます。成長すればするほど人生は難しくなり、少しずつ大人になりたいという気持ちを忘れていきます。

では、大人の生活はどうでしょうか。仕事や家の事情など、いろいろな理由で大人たちはやりたいことを我慢し正しいことをしなければなりません。

ん。このような生活はストレスがたまります。

大人は子どもの時よりもっと大きな幸せを求めようとします。子どもの時は両親からおもちゃをもらうだけで、うれしくて涙が出てしまいそうになります。

でも大人はおもちゃをもらってもうれしくはありません。このように、大人の求める幸せは子どもの時とは違います。手に入れる方法もやさしくない。このことに気づく人も時々います。皆さんも「子どもに戻りたい」と大人たちが言うのを聞いたことがあるでしょう。

子どもの心を忘れることは私にはとても恐ろしいことです。そして、もう1つ恐れていることは、生活に疲れて他の人の気持ちを考えない大人になってしまうことです。そんな大人になるのが怖いのです。

大人の世界に入りつつある私は、子どもの心を忘れずに成長していこうと思っています。つまずいたり転んだりして、全てを捨ててしまいたいと思う時があったら少し休んで、もう一度立ち上がって前に進みます。大人だからこそ、どんなに苦労しても乗り越えていく努力をするべきだと思います。でも、たまには子どものように楽しく遊んだり、つらかったら泣いたり、自分にあまり厳しくないようにしたいです。人生は困難があっても美しいものだと思います。

人生は1回だけです。私は1回しかない人生を最高のものにしたいのです。

3. エイ・チャンさん (Ms. Aye Chan) (ミャンマー / 22 歳 / 学生)

「オタクの日本語の勉強の仕方」

皆さんに聞いてみたいことがあります。日本語の勉強の仕方というのを想像しますか？ 大半の方は机で勉強することを想像したのではないのでしょうか。本日はオタクである私が、それとは違った学習の仕方を紹介したいと思います。日本の方に日本語の勉強方法を紹介するのも変かかもしれま





せんが(笑)、他の外国語もこの方法で挑戦してほしいと思います。

本題に入る前に、タイトルにもある“勉強”と“学習”の違いについて触れたいと思います。自分に無理をして覚えることを日本語では“勉強”と言い、自分の意思で覚

えることを“学習”と言います。本日の私の話を通して少しでも日本語を“学習”してくれる人が増えて欲しいと思い、本テーマを選定しました。

それでは本題です。日本語ができる外国人オタク全般に言える1つの共通点は、アニメ、ゲーム、J-popを中心とした日本のサブカルチャーを通して学んできたということです。日本のサブカルチャーは多彩で奥が深く、気づいた時にはどっぷりとつかってしまいます。私も最初にアニメを見たときは日本語が分からず、映像から雰囲気を理解できる程度でした。次第に好きなキャラクターのことをもっと知りたいと思うようになり、気になる言葉やセリフの内容を調べたり、カッコいいと思うセリフを口に出してみたりして、少しずつ日本語に興味を持ちました。簡単な挨拶や教科書にない「会話上の言葉」が自然に理解できるようになり、くだけた会話も聞き取れるようになりました。こうした日本語への触れ合いを繰り返すうちに、“勉強”のようなつらい思いをすることもなく、楽しく“学習”を続けることができました。

ここで重要なのは、多彩な日本文化の中から好きな分野を見つけ(私の場合はアニメ・マンガです)、その中に散りばめられた日本語を反復したり、知りたい言葉などを調べたり、口に出して読んだりすることで、少しずつ楽しみながら“学習”していくことです。事実、私のオタクの友達の中に、アニメで覚えた日本語を日常的に使用しているうちに、日常会話が問題なくできるように上達した人がいます。ゲーム好きのオタクにも、日本のゲームをやっている間に自然とひらがなが理解できるようになった人もいます。

机に向かって“勉強”するのも1つの手段ですが、

ぜひ日本のアニメ・マンガ等のサブカルチャーを通して、楽しく“学習”を続けるスタイルを皆さんにお勧めしたいと思います。

4. ソパルラー・クリームさん (Ms. Sophalla Khlim) (カンボジア / 20歳 / 学生)

「将来 結婚する？」

皆さん！ 今まで恋人が何人いましたか。もう結婚を決めましたか。結婚している人は今の生活はどうですか。

私には誰かを愛するということがまだよく分かりません。もし誰かが「君を愛してる」と言ってくれても、私は「いいえ」と言うつもりです。どうしてだか分かりますか。

私の友だちにはみんな彼がいますが、毎日彼とけんかをして泣いています。彼女たちはとてもかわいそうに見えます。楽しい時が悲しい時より少ないのにどうして彼がほしいのか、彼ができていつもけんかをするのにどうして結婚したいのか私には分かりません。

あるニュースによると、離婚している人は毎日増えているそうです。考え方の違いでよくけんかをするからだそうです。

私の祖母は、結婚せずに1人で楽しく生活することは幸せだと言いました。祖母は結婚してから今までのいろいろな大変なことを教えてくれました。妊娠や出産はとても大変だったそうです。祖父がお酒を飲みすぎて祖母にけがをさせたこともあったそうですが、痛くても子どものために我慢したそうです。私は祖母をかわいそうだと思います。結婚生活は良いこともあります、悪いことの方が多いかもありません。



昔のカンボジアでは、女性に学校で勉強させずに家事だけをさせていたので、社会の仕事があまりできませんでした。ですから自分の夢があっても叶えられず、世界にある素晴らしいものも知らないまま結婚していました。今でも女性は何でも

男性に助けってもらって、「七輪の周りを回れない」と言われています。「七輪の周りを回れない」とは何もできないという意味です。その頃の女性はとても見下されていました。家の仕事を頑張っても、ほめる言葉を一言ももらえませんでした。ですから私は新しい女性になりたい。男性に助けられるのではなく男性と同じ仕事をしたいです。男性がいなくても女性は何でもできるとしてもらいたいのです。

私は世界中を旅行したいし、外国で働きたいと思っています。いつか自分の家や車もあって、いい仕事もできたら結婚しないつもりです。1人だったら、何も、どこも、いつも、誰も私に迷惑をかけません。暇な時間を持ったり、何もしないでゆっくりしたりしたいです。皆さんはどう思いますか。

5. アップンヤー・スポンさん (Ms. Apinya Suporn) (タイ / 20歳 / 学生)

「忘れられない写真と『今』を生きる私」

皆さんはどんな時に写真を撮りますか。きっと楽しい時やうれしい時だと思います。時間が経ってからその写真を見ると、私はその時のうれしい気持ちや楽しい思い出がよみがえります。しかし苦しい気持ちになることもあります。

忘れられない写真があります。小学校からずっと同じ学校で親友だった友達と写っている写真です。

高校1年生の夏休み、彼女から「遅いじゃない！早く来て」というメールが届いていることに気がつきました。実は、その日の朝に彼女と会う約束をしていたのに私は忘れてしまっていたのです。「もう夕方だ！すぐに謝らなきゃ！」。私はすぐに電話をしましたが彼女は出ません。今度はメールを送りました。「ごめんね。さっき思い出したの。また遊ぼう」。しかし返事はありませんでした。それから新学期まで何度も電話をしましたが、一度も話せませんでした。

学校が始まって彼女を見つけ声をかけると、「あなたとは話したくない」と言われてしまいました。それから彼女は私の顔も見えてくれなくなりました。私は謝る勇気がなくなってしまいました。私たちの関係はそれ以上良くならないまま卒業して会わ

なくなりました。

私は彼女との写真を見て、写真を撮った時の楽しい気持ちを思い出します。そして、頑張っただけで謝れば良かったと何度も後悔します。もう写真を撮ったあの日のように彼女と笑い合えないと思うと悲しいです。



写真の中の人や風景はずっと変わりません。時間が止まった写真の中では、笑顔も友情もその時のままです。しかし、その人とはもう会えないかもしれません。二度とその場所へ行けないかもしれません。時間は流れています。

皆さん、「今」という時間の価値に気づいていますか。未来の私たちにとって、この「今」はきっと戻りたいと思うほど貴重な時間です。だから、この貴重な今を大切にしましょう。私は、今いる友達や場所、考えていることを大切にして今を大切に過ごしています。このコンテストの挑戦もそうです。練習中にやめたいと思ったこともありました。やめたら未来の私はきっと後悔すると思いました。だから、今できることを一生懸命やろうと練習を頑張りました。私は今日の写真を見て後悔することはないでしょう。

皆さんも将来、写真を見て後悔しないように今を大切に生きてください。

6. ビートゥーン・シサケットさん

(Mr. Vithoun Sisaket)

(ラオス / 28歳 / 日本語ガイド)

「宝物」

今の社会には、貧しい人や裕福な人、教育を受けた人や受けていない人など様々な人がいます。そして皆さんには好きなものや欲しいもの、そして大事なものがあるでしょう。これから私の宝物についてお話したいと思います。

今まで大事にしてきた親友や恋人、先生や親などはもちろん人生の宝物です。私が伝えたい人生の宝物とは、これがあれば人生が変わるようなも



のです。知識のない人は賢くなり、失敗を成功に変え、貧しい人は裕福になれるようなものです。全ての人が同じものを大切にするわけではありませんが、あなたにとってなぜそれが人生の宝物なのか答えられるものがあることでしょう。

私の人生の宝物は、これまでも、そしてこれからもずっと持ち続けるものです。これはもしかしたら皆さんにとっても大事なものかもしれません。何だと思えますか？ お金？ 食べ物？ 車？ ……。何が宝物になるかは人によって異なるでしょう。私は「あなたは宝物を持っていますか？」と質問されたら胸を張ってこう答えます。

「もちろん持っていますよ。それはいつもカバンの中にあり、小さい頃から持っている、ボールペンと本です」。

この2つを大事にする理由は、私の人生にとって大切な知恵や知識を得ることができるからです。それは貧しかった両親が私に与えてくれたものでもあるからです。

私たち家族は農民で貧しかったので、竹で作った小屋に住んでいました。そんな貧しい生活の中から、両親は私を小学校に通わせるためにボールペンと本を買ってくれたのです。両親が買ってくれたボールペンと本があるおかげで、私は知識と知恵を学ぶことができました。ボールペンと本は、私に人生の生き方を教えてくれました。

私は今でも私の人生の宝物をカバンの中に入れて、いつも持ち歩いています。そしてこれからも毎日毎日大切に使っていきます。

7. ダヤプター・ザヤプトゥリ・ペンギラン・ハジ・モハマッド・ヤミンさん

(Ms. DK Zayaputeri Pg Hj Mohd Yamin)

(ブルネイ / 29歳 / 学生)

「泣かないで」

今日は日本人の友達から学んだことを話します。それは10年前のことです。



私は日本語を2年半学びましたが、時間が経つうちに自分の日本語がどんどん悪くなっていきました。せっかく勉強したのにもったいなあと感じていました。そんな時、オーストラリアに留学することになりました。

オーストラリアではたくさん日本人に会い、彼らからいろいろなことを学びました。

最初に会った日本人の友達は大阪から来た人でした。その人は、「最高やな」(笑)とか、「めっちゃ楽しいやんけ」(笑)とか、「自分何ゆうてんのん」などという、私が聞いたこともない日本語を話します。私は最初彼が何を言っているのか分かりませんでした。私が「何？」と聞き返すと、彼は「ごめん、大阪弁使ってたわ」と言いました。そこで初めて日本には方言があることを知りました。

彼だけじゃなく、私の友達は名古屋、鹿児島、東京など、みんな違うところから来ていて、みんな違う方言を使っていました。私はびっくりしました。そして、すごく面白いと思いました。どうして彼らは普通の日本語を教えてもらえなかったんだろう？(笑)

ほかに、日本語はイントネーションが大切だということを知りました。例えば私は最初、「泣くなよ」となぐさめるときに、「泣かないよ」と言っていました。友達は「違うよ、違うよ」と言いながら、何度も何度も「泣かないよ」じゃなくて「泣く・な・よ」だよと教えてくれました。さらに、もっと女の子らしい言い方も教えてくれました。

(愛らしい口調で)「泣かないで」(笑)

ほら、ドキッとしましたか？(笑) 皆さん、いまの「泣かないで」と、さっきの「泣くなよ」のどちらがいいと思いましたか？ 言い方を少し変えるだけで印象がこんなにも変わるなんて、すごく面白いなあと感じました。

これで私のスピーチを終わります。聞いてくれて、ありがとうございました。

8. プリンセス・メグ・ペRezさん

(Ms. Princess Meg Y. Perez)

(フィリピン / 19歳 / 学生)

「サイズは 100-90-110」

私のスリーサイズは100-90-110 cm。夢は日本で歌って踊れるアーティストになること。そのサイズじゃ無理？ いえいえ大丈夫。AKB48じゃなく、BOA や FUNKY MONKY BABYS、EXILE とかを目指してるんで。こう見えても子どもの時から歌やダンスのコンテストではいつもチャンピオンでした。

だけど実は問題があります。私の心の中に小さなメグがいるのです。怖がり屋で自信がなく自分の思い通りに何もできない小さなメグが、「ばかな夢はあきらめろ」ってささやくんです。

母は家庭のある男性と恋に落ち、私を産みました。そのせいで祖母とうまくいかなくなり、私が小学校3年の時、私を置いて日本へ行ってしまいました。私は祖母やおじ、おばのもとを行ったり来たりしながら大人たちの言う通りに生きてきました。叱られないように、嫌われないように。でも、いつもダメな子だと言われ続けました。

ようやく母と日本で暮らせるようになったのは小学校5年の時。母には日本人の夫がいて、そ

のひとの間にできた幼い妹もいました。母たちはレストランの仕事で朝から晩まで忙しく、私は妹をおんぶしながらごはんを作り、洗濯し、レストランの手伝いまでしました。それもこれも母に喜んでもらうため。

ある日学校でイジメにあい、携帯電話に見知らぬサイトから何百万円ものお金を払えというメッセージが来ました。母に相談しても信じてもらえず、こう言われました。「あんたダメな子ね、私の家族を壊さないで」。

「私は家族じゃないの？ 何をしても私はダメな子、誰にも愛されないんだ」。

こうして小さなメグが生まれたのです。だけど小さなメグが少しだけなくなる時があります。それは思い切り歌ったり踊ったりしている時。私は自分がしたいことが選べる自分になります。それから、誰かに愛されている時。誰かっていうのは今のところ神様だけなんです。だからアーティストになりたいんです。そうすれば自分らし



「異文化理解」という言葉の深み



特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
大野貴則

(上智大学経済学部経済学科4年)

本年の日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業を通じて ASEAN 諸国の優秀な学生たちと約5日間共に過ごせたことを大変うれしく思っています。

皆さんとの交流の中で、1人の若者として「未来を切り開いていく若者の異文化理解の大切さ」を大いに考えさせられました。近年IS等のテロ組織の台頭や国家間の対立など、かたちは変わっても争いが尽きることはなく、いまだ世界全体の平和は訪れていません。本事業を通して ASEAN 諸国の未来を背負って立つ同世代の人たちとの会話や交流の輪に加わることで、お互いの文化を理解し合おうとする彼らの強い思いを感じることができました。宗教的な違いを拒絶するの

ではなく受容し合っていたり、来日が初めての人も日本食や日本文化を受け入れていたり、といった光景がとても印象的でした。紛争は大きさこそ違っても、その原因はお互いの理解の欠如にあると考えています。だからこそ、このようなお互いを理解し合う姿勢こそが平和への第一歩だと強く感じると同時に、草の根かもしれないが、海外の人たちとの交流を通して異文化理解を促進することも、より良い社会をつくる上で重要な1歩だと確信しました。

日常生活においてこうした学びを得られる機会はめったにありません。ASEAN 各国の学生と今回交流できたからこそだと感じています。学びの一つひとつが私自身を成長させる種ともなり、貴重な機会を提供してくださった関係者の皆様に感謝したいと思います。そして1人のアイセックメンバーとしてだけでなく、未来の日本を背負っていく人材として、海外の人々と交流し理解し合うのはもちろんのこと、今回知り合った ASEAN 各国の友人たちと共に、より良い社会をつくっていきけるよう尽力してまいります。

く生きられ、歌や踊りで誰かを元気にでき、誰かに愛されるでしょ？ その愛が小さなメグを消してくれるでしょう。

ところで皆さん、サイズ100－90－110のアーティストっていませんか？ 実は私もコメディアン以外には見たことがなくて。じゃ、ダイエットやります！ 来年の春、超セクシーになって日本でデビューするメグをぜひ応援してください。私がBOAたちに元気をもらったように、私も日本中の小さなメグを元気にしてあげたい。でも、サイズは90－60－90なので(笑)お間違えなく。

9. ジョイス・ハヤシンス・パカルドさん

(Ms. Joyce Hyacinth L. Pacaldo)

(フィリピン／20歳／学生)

「何よりも私を愛してくれている人」

私のお父さんは世界で1番厳しくて、うっとうしくて、すぐに怒る人。それはもうギネスブックに載るほどです。いつもしかめっ面で怒っている。例えばこんな感じです。「行儀よく振る舞いなさい！」「部屋が散らかっている。掃除しなさい！」。まだあります。友達と遊びに行くと言うと、「ダメだ危ないだろ！ 家にいなさい！」。学校で行事があっても「忙しいから行かない」と、一度も私が活躍する場に来てくれません。「お父さんは私のことが嫌いなんだ。いつも怒っているし、私に幸せになってほしくないんだ」と思っていました。

去年の6月にお母さんが病気になり、何週間も入院しました。お父さんは病院で寝泊まりしながら、私と弟のために朝ご飯を作り、洗濯もしてくれました。

弟と家で留守番することになった私は、弟の親代わりとしての生活を始めました。朝早く起きてご飯を作ったり掃除をしたり、全ての家事をしなければなりません。散らかっているところがあると、何回片付けをすればいいのとイライラさせられました。お父さんから預けられたお金を細かく管理し、弟が遅刻せずに学校へ行ったかどうか、帰りが遅い日はどこにいて何時に帰ってくるのか確認しなければなりません。

お母さんが入院している間、学校に通い、宿題、勉強をし、家事までこなすのは本当に大変でし

た。でも、学んだことはたくさんあります。お父さんがいつも言っている「部屋が散らかっている。掃除しなさい！」、これは私たちに責任感のある人になってほしいから。「ダメだ危ないだろ！ 家にいなさい！」、これは私のことを心配しているから。学校の行事に「忙しいから行かない」、これは私たちが満足な生活を送れるように一生懸命働いてお金を稼いでくれているから。「いつもどうしてそんなに厳しくするの？」と不思議に思い続けていたことがすーっと理解できました。

私のお父さんは世界で1番厳しくて、うっとうしくて、すぐに怒る人です。でも世界で最高のお父さんです。いつも私を信じてくれています。私にとって1番のファンで見えないところで支えてくれています。何よりも私を愛してくれています。それを知っている今、たとえお父さんがいつも怒っていても、そばにいらなくても、世界一のお父さんです。生まれ変わってもお父さんの娘でいたいです。お父さん愛してるよ！



10. ミカル・ラウ・マウ・シェンさん

(Mr. Micheal Law Mao Sheng)

(マレーシア／19歳／学生)

「普通」

今日は皆さんと一緒に「普通」という言葉について考えてみたいと思います。

デートで彼女がこう言いました。「あなたのファッションはとっても普通ですね」「普通ですね」「普通ですね」……(リフレイン)(笑)。こんなことを言われても誰も喜ばないと思います。

グループで課題について相談した時、私のアイデアを話しました。すると仲間から、「普通で新鮮じゃないです」と拒絶されました。こういう場合、普通と言われたら傷つきます。

「普通」の良い意味での使い方もあります。例えば、警察署での会話「今日は何か事件が起きましたか」「何も起こらず普通の1日でした。と

ても平和です」。

「普通」を望んでいる人はたくさんいます。なぜでしょう。3つの可能性を考えてみました。

1つは普通じゃない生活をしているからです。両親がいなくて2～3日ご飯を食べてい

ない。学校へも行けない。だから普通を望むのです。次は特別な才能や能力を持った人たちやアイドルです。いつも特別扱いをされ疲れます。だから彼らは普通の生活がうらやましいのです。

もう1つの可能性は、何かに挑戦し失敗して時間を無駄にするのが怖い人たちで、普通の生き方を選びます。

工学部の学生の私が日本語を一生懸命勉強するのは普通じゃないかもしれません。私は「失敗して時間を無駄にするのが怖い」人かもしれません。

私は日本のアニメが大好きです。あるアニメに、将来の夢がなく特別な才能もない男の子がいました。男の子は夢や才能を持った友達に出会って、特別な男の子になりたいと思い始めました。そして私も、「普通でいいのかな、ちょっと変わりたい」と考えました。そんな時スピーチ・コンテストがあることを知り、参加することに決めました。結果は特別ではないかもしれませんが、普通でも失敗ではありません。だから、誰が特別で誰が普通なのか決めつける必要はないのです。

ある日本のドラマの学生と先生の会話がとても好きです。「この世の中で幸せを手に入れたのは、たったの6%です」と先生。1人の学生がこう言いました。「先生、幸せは人によって違うんじゃないですか。ここにいる24人には24通りの幸せがあると思います。サッカーをすることで幸せな人もいますし、好きな人と一緒にいるだけで幸せな人もいます。幸せを決めるのは他人ではなく自分じゃないんですか」。自分のやりたいことをやって、後悔と残念な気持ちを残さないように生きていくのが1番いいと思います。

自分の色を見つけた人は特別なのか普通なのか。



か。そんなものはどうでもいいのです。なぜなら、その人はすでに幸せを手に入れたのだから。

11. リー・チョー・ユーさん (Mr. Lee Chou Yew) (マレーシア / 20歳 / 学生・塾講師)

「教師になった経験」

私はAレベルを勉強している時、物理の先生に紹介され、家庭教師として物理を教え始めました。教師に憧れていた私には、すごくうれしいことでした。

最初は塾で先生の助手として学生を教えていました。私は教えるのが初めてですごく緊張しました。しかし、私は教えるにつれ元気になり、教えることが好きだと自覚しました。私はのどが乾いても声を失っても、学生が勉強し続ける限り教えるタイプです。その後、先生の代わりに3人の学生を家庭教師として教えることになりました。

物理はかなり難しい科目なので、私は学生たちを嫌がらせないように面白い教え方をよく考えました。例えば私は学生たちに身の周りに起こる自然現象を理解させるためよく実験をします。

初めて学生たちにキッチンで行った実験の話です。液体とガスの熱伝導率の違いで表れるライデンフロスト効果という現象を学生たちに示すため、私はまずフライパンを水の沸点より熱くしてから水をつけて見せました。ところが、私が急に水をつけすぎたためにパンが壊れそうな大きい音が出て、思わず叫び出すほどのパニック状態になりました。それで火を消して、今度は水を少しづつつけました。すると、水がフライパンの上に乗っているようになって皆は驚きました。こうして実験は成功しました。学生にその現象を液体とガスの水分子の距離で説明したら、すぐ理解してくれました。私は物理原理で学生たちを驚かせるのが楽しいし、彼らが分かりづらい原理を理解できるのもとてもうれしい。

教師になってから1番印象的だったこと



は、私の学生が物理の試験に優等で受かったことです。私はどんなに些細な間違いも詳しく説明し、難しい問題でも根気よく教えました。学生からお礼を言われた時、私は喜びのあまり何も言えませんでした。

教師になることは簡単ではありません。なぜなら、肩に責任を負うからです。自分の子どもにいい成績を取らせたいという親御さんの期待も満たさなければなりません。腹が立つ時も、がっかりする時もありますが、学生たちが本気で勉強して知識を身につけることは私にとって最高の報酬です。やはり私は教えることが好きです。将来も私は教師の仕事の続けていきたいと思えます。

12. フィルスタ・ノヴィカ・アガニユさん

(Ms. Firsta Novika Aghaniyu)

(インドネシア / 23歳 / 会社員)

「マッチ棒」

皆さんは子どもの頃、クラスの友達から何と呼ばれましたか？ 私はガリガリにやせていたため「マッチ棒」と呼ばれていました。男子から「おい、マッチ棒、『生きている骸骨』みたいで気持ち悪い！」とか言われ、よくいじめられました。

小学生の私は考えました。マッチ棒は細くて長い。いくらでもあるので特別なものでもない。使った後はすぐ捨てられるからマッチ棒にあまり価値はない。では私は？ 私も他の人より優れていることは何もない。マッチ棒と似ているのかもしれない。そう考えたら私は自分がかっかりしました。私はいつも自分と他の子たちを比べて自分に自信が持てず、小学校から中学校まで1人で過ごすようになりました。

高校生になって私は変わりたいと思い、勇気を出して他の子たちに話しかけるようにしました。ある日、私はA子ちゃんと話をしました。A子ちゃんは頭が良く色が白くてかわいい子で、将来の夢はスーパーモデルになる

ことでした。

A子ちゃんは私に言いました。「フィルスタちゃんはいいな～。うらやましいよ」。私は「何を言っているの？ それは私のセリフだよ」と言いました。するとA子ちゃんは、少し悲しそうな顔をして言いました。「スーパーモデルはね、みんな背が高く体がすごく細いよね。私は背が低くて太ってるからスーパーモデルにはなれないの。フィルスタちゃんは背が高くても細いから、スーパーモデルになれるかも知れないよ」。

私はびっくりしました。他の子たちとも話してみると、みんないろいろな悩みを持っていました。自信を持てずに悩んでいる人は私だけじゃない。それでも頑張っているから私も頑張らなきゃ、と思いました。

大学生になって大きなイベントのMCや学生会のメンバーをしました。日本語を一生懸命勉強して日本語能力試験の2級にも合格しました。そして、大学卒業後は念願だった日本の会社に就職することもできました。でも、子どもの時から「マッチ棒」とか「生きている骸骨」とか言われていじめられたことがトラウマになり、どうしても自分に自信が持てませんでした。特に仕事でミスした時とか、日本語通訳が上手にできなかった時は、「私はやっぱりダメな人だなあ～」と落ち込みました。それでも私は日本語の勉強だけは毎日続け、週1回、日本語会話の勉強会に参加していました。

ある日、勉強会が終わった後、日本語の先生が私に言いました。「フィルスタさん、もっと自分に自信を持ってください」。そして先生は、SMAPの『世界に一つだけの花』という歌を教えてくださいました。この歌を聴いて私は本当に感動しました。そして私は決めました。

“もうこれからは他の人と比べて自分はダメだとか落ち込むのはやめよう！ マッチ棒でもいいじゃないか！ 顔がかわいくなくても大丈夫！ 私は私、他の人になれないから。比べるなら、昨日の自分と今日の自分、今日の自分と明日の自分を比べよう！ 自分自身に負けないように、ゆっくりでもいいから自分らしく前に進んで行こう”



みんなの心はいつも晴天



コーディネーター 林 徹
(日本在外企業協会 業務部主幹)

今年も ASEAN 8 カ国から各国の日本語スピーチ・コンテスト優秀者 12 人が来日。10 月 23 日(日)から 30 日(日)までの 8 日間東京に滞在し、企業訪問、日本語講座、日本文化体験会、都内観光など日本を体験したほか、27 日(木)には日本語スピーチ発表会で見事なスピーチを披露した。

10月23日(日) 早朝到着のメンバーはホテルに荷物を預けてさっそく都内探検に出発、夕方ホテルに戻ってチェックイン。フィクリさん、ジェリーさん、エイチャンさん、パルラーさん、インインさん、ビーさん、ディーケーさん、メグさん、ジョイスさん、ミカルさん、スティーブさん、フィルスタさん、ようこそ日本へ！

初対面にもかかわらずメンバー全員が流暢な日本語で挨拶するのを見て仰天した。

10月24日(月) 日外協でオリエンテーションと職員全員との昼食会の後、味の素の川崎工場を見学。

昼食会では「日外協の人は厳しそう！」というのが来日した皆さんの第一印象だったようだが、話していくうちに「しかし見た目だけでした」に変わり、年の差は関係なく打ち解けることができた。

味の素見学では「鰹節かつおぶしけずり」や「旨みうま」を体験、皆大騒ぎ。

夜はホテル近くで本場のラーメンを堪能、「皆で食べたラーメンは格別だった」との感想。

10月25日(火) 午前中は日本語講座を受講。「異文化と語学」という切り口で、日本の諺ことわざについて議論を交わす中で、お互いの国の文化の違いに触れ気がついた様子。

午後は花王の墨田事業所と旭硝子ショールームを見学。歩く生活から縁遠い彼らにとって電車、地下鉄の乗り換えと徒歩はつらく、特に押上駅から花王事業所までの 1.5km の移動では約 1 時間

を要した。表面上は陽気に写真を撮っていたが、本音はバテバテのようだった。

10月26日(水) この日は「はとバス」ツアーで東京観光。東京タワー、東京スカイツリー、浅草、皇居を巡った。皆マイペースで楽しんでしたが、バスツアーは一般客も一緒に遅刻は厳禁。だが、とうとう他のお客様から大ひんしゅくのクレームがあり、事務局がお詫びして対応。

10月27日(木) 午前アイセック・ジャパンの案内で東京大学本郷キャンパスに行き、書道を体験。最初は習字とはかけ離れていたが、1 時間半の練習後には上手に書けるようになり、各自、好きな漢字を色紙に書いてお土産を完成。

午後は、アセアンホールで「日本語スピーチ発表会」。皆緊張していたが、昨年度発表者からの応援のビデオメッセージ、参加者からの温かな拍手、仲間の頑張っている姿などに励まされ実力以上を發揮。人を惹きつける話し方、ユーモアもあって、皆すばらしいスピーチ。参加者全員が感動と賞賛。

その後の交流会では、ごちそうを食べながら発表者と参加者約 60 人が交流。最後は歌合戦に踊りもあり、大盛況の夜となった。

10月28日(金) 皆の夢だったディズニーランド、あいにくの雨模様だったが彼らの心は晴天。当然、閉園まで遊び、ホテルに帰ってきたのはほぼ深夜。

10月29日(土) この日は 1 日自由行動。特撮ミュージアムに行ったり、新宿御苑でボートに乗ったり、デパートで買い物をしたりと、各自最終日を満喫。

10月30日(日) 早朝に出発しそれぞれの母国へ。期間中、迷子になったメンバーもいたが、病気、事故等はなかった。SNS でつながっていたおかげで行き先情報、彼ら同士の情報連絡も密だった様子。皆とにかく仲が良い。何をしても実に楽しそうだ。

帰国後の感想文では、皆が「もう一度同じメンバーで会いたい」、「日本にもう一度行きたい」。また、見学企業に興味を持った人たちもいて、将来日外協の会員企業で活躍してくれることに期待したい。